

# 令和6年度 和光小学校「学ぶ力」育成プログラム

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22010

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇R5 年度児童アンケートにおいて、学習を理解していると回答した児童が多かった。札幌市共通指標の「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている」という項目の肯定的な回答も多く、やるべき学習にはしっかり取り組むことができる子が多いと言える。</p>	<p>◇R5 年度児童アンケートにおいて、勉強が好きではないと否定的な回答をした児童がおよそ3割いる。自信をもって発言することができていない児童も3割を超えることが分かった。</p> <p>◇子ども自ら学ぶとする意識は低い。札幌市の共通指標「自分で計画して学習する」という項目も肯定的な回答の割合が低い。教師主導の学習になってしまっていることも影響していると考えられる。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市の共通指標の「自分が必要とされていると感じる」という項目や「自分の意見を進んで発言しようとしている」という項目は、肯定的な回答が低いが、友達とともに学ぶことに楽しさを感じたり、困ったときに協力して学ぶとしたりする児童は多い。子ども同士で認め合う雰囲気をつくり、教師の価値付けも合わせることで、自分に自信をもって取り組めるようにしていきたい。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

集団での学びを通して、問いを見付けたり考えを広げたりする力。しなやかな発想。

	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>◇研究主題「共に考え、分かる・できる・深まる授業」の実現</p> <p>→子どもが自分で問いを見付けるために ずれや問いが生まれる導入・子ども理解を大切に単元構成 AAR サイクルを意識した単元構成、本時</p> <p>→自分の考えをもつことができるように 解決までの見通しをもたせる工夫・考えの表出方法を工夫</p> <p>→子どもの考えが広がり、深まるための関わり 揺さぶりをかける教師の関わり・子どもの思考に沿った交流</p>	<p>◇学級活動の充実</p> <p>→低学年から学級会、係活動の経験を積み上げていく →年35時間の使い方を学校全体で見直し、計画して実施</p> <p>◇委員会活動</p> <p>→常時活動だけでなく、目的を意識した活動の創出</p> <p>◇プラスのまほうを生かした目標設定、振り返り</p> <p>→キャリアパスポートなど、目標を設定する際はそれがどの項目に当てはまるか考えて記入、それを基に振り返りをする</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

